

発表分野	家庭	学校名	室戸高等学校	発表チーム名	室戸高等学校家庭クラブ
研究発表題目	つなぐ～すまきドッグで室戸に Come On! ～				
発表者	吉本優奈・仙頭里峰				

1 はじめに

私たちは、昨年度、室戸高校の先輩方「キラッと輝け室戸開発部」が、地元の道の駅と共同開発した「室戸の中華まん」の販売活動に参加した。その活動を通して、地域貢献について深く考えるようになった。ここでは、中華まんの商品開発を振り返り、室戸の活性化につながる新たな商品開発の提案活動について報告をする。



2 実践活動

(1) 「室戸の中華まん」販売活動の振り返り

実際に販売をして、手ごたえを感じたが、家庭クラブ員に中華まんについてのアンケートを取った結果、さまざまな意見が出てきた。また、学園祭で販売したにもかかわらず、食べたことがない生徒が6割を超え、販売自体を知らなかった生徒が多いことに気づいた。

(2) 新商品開発

① 検証事項

「味の良さ」「室戸の特産物の使用」「インパクト」「高校生の開発」「販売店限定」「手作り」などが良かった点として挙げられた一方、「販売店の拡大」「広報活動」「金額面」などが改善点として挙げられた。そこで、引き続き室戸の特産物を使い、インパクトがあり年間を通して販売できる商品を考案することで販売拡大を目指すことにした。

② 食材選択

室戸の特産品の「みかん」、「さつまいも」、「なす」に加えて、「魚（練り物）」に注目した。魚については、高知県特有の食材で、年間を通して購入できる「すまき」を活用することにした。

③ 試作

学園祭で好評だったチーズドッグを参考にすまき入りのアメリカンドッグに挑戦した。断面はきれいなものの、チーズの漏れ、調理のしづらさなどが課題として挙げられた。また、練り物嫌いの人が食べられるようにする工夫が必要であると考えた。



課題を改善するために、竹串の変更、生地改良、チーズが流出しないための方策を考えた。また、練り物嫌いの人たちが食べられるようにするためにチーズの増量や揚げ方などの方策を考えた。

④ 提案

試作品を地元企業に提案し、アドバイスをいただいた。「すまきの中に、チーズが入っていたらよいのではないか」や「味のバリエーションを増やしてはどうか」など、たくさんの案が出てきた。

3 まとめ

活動を通して、地域の方々が私たち高校生柔軟な発想力や行動力、情報発信力に期待していることがわかった。また、設備面などで私たちの力では実現不可能なこともあるので、実現するためには企業の協力が必要であると気づいた。この商品が室戸のあらゆる飲食店で販売され、それぞれのお店のオリジナリティーが加わることで、リピーターも増え、室戸の良さを実感してもらえるのではないだろうか。眠っている室戸の資源をどう生かすか、私たち高校生も地域を担う参画者の一人として、一緒に考えていく必要があると実感した。次年度には、商品化が実現できるよう取り組みを進めていく。